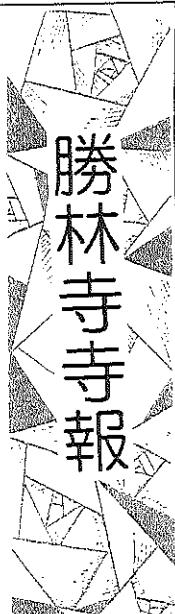


# 勝林寺寺報



## 五劫思惟之撰受

## 重誓名古聞十方

## 播放無量無辺光 無碍無対光炎王

「重ね重ねお詫び申し上げます。重ねるが二つ、重なっています。同じ言葉を繰り返すといふことは、その意味を強調しているわけです。言葉や行為が重なっている、つまり何回もやっている、何回も言っているということになります。阿弥陀様も重ね重ね誓われました。「名声が十方に聞えん」とを」。」（「名声」は（みよう）と読みますが、一般的には（めいせい）。ワープロで、《みようしよう》と入力しても、「名声」は出できません。

私たちの社会で名声を得たことは、大きな物事を成し遂げて、世間に広く名が知られるようになること、大概は欲が絡んで、売れっ子になる、評判になる、功名を立てる、認知度を上げます有名になる、話題をさらう、などと、あまり良い感じのしない言葉のように思えます。親鸞聖人も、教行証文類の信巻で「誠に知りぬ。悲しきかな、愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づく」とを快しまざるものとを、恥ずべし、傷むべし」と嘆かれています。

『名利（みよひ）』とは『名誉欲』と『利益欲』。『名誉欲』とは、「ほめられたい」「認められたい」「大事にされたい」「人より勝りたい」「見下されたくない」「嫌われたくない」という心。『利益欲』とは、「カネが欲しい」「モノが欲しい」という心です。カネがあれば何かあっても安心ですし、好きなものも貢え、好きなことができますから、とにかく「カネがほしい」

スリートには、スパンサーがつき、収入は増えます。学問でも名声が高まれば、本も売れ、講演料、大学での地位など上がり、給与が上がります。このようにたいてい利益欲と名誉欲は比例して増減するものなので、まとめて『名利』といわれます。親鸞聖人は名利の心が大きな山の「とくある」自身の心を知らされ、「名利に振り回され、迷い、苦しんでいる親鸞だ」「名利そして愛欲に迷い苦しんでいるのが私の実態だ」といわれます。

親鸞聖人は名利の心が大きな山の「とくある」自身の心を知らされ、「名利に振り回され、迷い、苦しんでいる親鸞だ」「名利そして愛欲に迷い苦しんでいるのが私の実態だ」といわれます。親鸞聖人は名利の心が大きな山の「とくある」自身の心を知らされ、「名利に振り回され、迷い、苦しんでいる親鸞だ」「名利そして愛欲に迷い苦しんでいるのが私の実態だ」といわれます。

されたのです。現代社会に生きる私たち、とくに戦後の経済優先の社会的価値観からは、この「恥ずべし 傷むべし」の感情が著しく抜け落ちてしまつたようです。

話がかなり逸脱しましたが、もちろん阿弥陀利に振り回され、迷い、苦しんでいる「私たちを何とか、どうしても、絶対に、救わなければ自分は仏にはならないと重ねて誓われた言葉でしただけです。

\*感染対策を十分講じて、じなたでも参りいただけのよう準備いたしました。しかし、コロナウイルスの感染状況によつては、中止となることもあります。あらかじめご了承ください。

＊なぜ、「勝林寺・net」からカンパインでわいただくだけですか。当田、じじ都合が悪ければ、後日、ホームページでも法要の様子をじご覧いただけます。

は『仏説無量寿經』の上巻にある讃歌で、はるか昔に仏となられた阿弥陀様は、すべての苦惱の人々を救うため法藏菩薩として現れ、世にこえた四十八の願いをおこされ、そして、「心貧しく苦しみ悩む人々を迷いの海から救い出し、南無阿弥陀仏の名号に込められた心を伝える」とができなければ、決して仏にならない」と、重ねて誓われています。このところを親鸞聖人はお正信偈の中に引かれていくのです。

（文責 住職）

午後1時より  
勝林寺本堂  
内容 報告総会、物故御遺言法要

## ご案内

### 春の彼岸会

夜が明けるのがずいぶん早くなつた。鳥のさえあつもしきやかになつても、季節は確實にめぐつてござります。

お念仏申しましょ。彼岸会をお勧めします。このようにたいてい利益欲と名譽欲は比

午後1時より  
勝林寺本堂  
内容 正信偈お勤め

午後1時より  
勝林寺婦人会 総会  
内容 法話

午後1時より  
勝林寺本堂  
内容 法話

午後1時より  
富嶋大樹宅 一一回目  
内容 みのりを聞く会

二六日（金）  
二七日（土）  
内容 出石組 組内会  
内容 彼岸会・合同役員会

二八日（日）  
内容 みのりを聞く会

二九日（月）  
内容 みのりを聞く会

二九日（月）  
内容 みのりを聞く会

## 仏教婦人会総会延期

例年、春のお彼岸会の午前中に開催しておりますが、総会、彼岸会と続くと同食をはじめ、長時間にわたること

から、コロナウイルスの感染対策が十分とれないと判断し、時期を延期し、内容を縮小して行うこととしたします。仏婦会員様には、改めて来用申立てし案内いたしましたが、ご予定ください。

午後1時より  
勝林寺本堂  
内容 報告総会、物故御遺言法要

## 三月 勝林寺 予定

三 日（水）	兵庫教区	常備会（リモート）
七 日（日）	中島健人宅	惡明法要
一三日（土）	衣川正之宅	三・一七回忌
一七日（木）	兵庫教区	教区会（リモート）
二十日（土）	勝林寺婦人会 総会	
（延期 四月一二四日）		

二六日（金）	勝林寺婦人会 総会	
二七日（土）	出石組 組内会	
二八日（日）	富嶋大樹宅 一一回目	
二九日（月）	みのりを聞く会	
二九日（月）	みのりを聞く会	
二九日（月）	みのりを聞く会	

二六日（金）	勝林寺婦人会 総会	
二七日（土）	出石組 組内会	
二八日（日）	富嶋大樹宅 一一回目	
二九日（月）	みのりを聞く会	
二九日（月）	みのりを聞く会	
二九日（月）	みのりを聞く会	

私は私の生きやかな家庭があります。そこには私を軸とする小さな世界があり、またそれを中心としてさまざまな人間関係が成り立っています。その中につつて、私はたしかに、たしかに、自分の人生の歩むべき道をほんとうに見とおし得ているでしょうか。人間に生まれてきてほんとによかったといえるような、人生のまことの宝をたしかに選びどりながら生きているでしょうか。肉親という恩愛のきずなにとざされて、心浅くも、ほんとうはどうでもいいようなもの、いつかは色あせていくようなものに、うつつをぬかしてはいなでしようか。わたしはまた現在では、京都の大学に勤務して、学問研究と学生教育の仕事にたずさわっていますが、そこにはいつもさまざまな主張や見解が交錯するともに、人間関係をめぐっているいろな情念が入り乱れ、たえまなく心を碎かねばなりません。そのただ中にたずさみながら、いたずらに状況に迎合せず、体制に妥協しないで、自分をまさしく立てゆくということは、とてももんじいことであります。しかしながら、私はその當みにおいて、たしかにまことの方に向を見通し得ているでしょうか。そしてまた私は一人の念佛者として寺院に住し、真宗教團に所属しておりますし、さらにはまた社会人として、この現代社会のただ中に生きています。そのため、ここにもいろいろな見るわけであります。しかし、私はその選びの解が渦巻き、さまざま問題が山積しております。そしてその現実的な緊張状況はいやおうなしに、私はその選びの決断をせまつてしまいを売り渡してはいないでしょうか。私いたずらに世俗の生活に流されて、自分のたまりを主張されました。親鸞聖人はそれをうけ取り、人間に生まれたことのまことの「あ

かし」を求め続けているでしょうか。私はいまそのいずれの場面においても、自分自身の人生の営みにおいて深く自問し、懷疑せざるをえません。そして私はいまあらたに、私はいつたい何を選び取り、何を選び棄ててゆくべきか、その人生における見通しの困難さを思い、またそれを選び取り、選び棄ててゆくことの、きびしき、しんどさを思はずにはおれません。

人生とは選びの営為の集積であるとすれば、そこで何を選び取り何を選び棄てるべきか、明確な基準が必要となります。しかしながら、私たちの人生の日々はすべてがはじめてのおわりです。毎日が新しい経験の連続です。そこでは自分の人生の選びにおいて、たしかな基準はなかなかもちえず、出たとこ勝負といふほかありません。だがもし私たちが、すぐれた先人の生き方を学び、その足あとを尋ねてゆくなれば、そこにはきっと、自分の人生においてゆくならば、そこにはきっと、「全部賜うたものである」といふべきです。

細川 岩  
「私」たちは「知識がある」とか「知識がない」とか言います。この「知識」という言葉は仏教に由来する語で、本来「先生」を意味します。たとえば「私には多くの知識がある」といふ場合、それは困ったときに教導してくれる「先生」が多いという意味です。私たちは生まれてから種々のことを学び知識を得ますが、そこには必ず「先生」がいました。「自分には知識がある」という場合、それは自らが学び習得したものです。それを伝えてくださった方々の「苦勞に感謝することが大切です。しかし多くの場合、感謝すらなく、傲慢にも「自分には知識がある」と威張つてしまうのです。

親鸞聖人が詠まれた「正像末和讃」の一つに「恩徳讃」があります。

如來大悲の恩徳は 身を粉にしても報すべし  
師主知識の恩徳も ほねを碎いても謝すべし  
「如來大悲」とは「南無阿弥陀仏」の親心のことであり、この煩惱具足の「私」のいのちを見放すことなく照らし続ける阿弥陀さまの智慧と慈悲です。「師主」とは、先生の中の先生でその「智慧と慈悲(南無阿弥陀仏の功德)」を私たちに説き示してくださったお釈迦さまのことです。

足あとは、日本の歴史においては、ことに中世の人々の生きざまに、あざやかにみることができるようです。すなわち、鎌倉新仏教の祖師たちの生き方がそれあります。法然上人はその生涯をかけて「専修念佛」ということを主張されました。親鸞聖人はそれをうけ取り、人間に生まれたことのまことの「あかし」を求めて続いているでしょうか。

私はいまそのいずれの場面においても、自分自身の人生の営みにおいて深く自問し、懷疑せざるをえません。そして私はいまあらためて「唯以信心」と明かされました。(次号に続く)

（信楽俊磨『真宗入門』より引用）

法語カレンダー三月  
私の上にあるものは  
全部賜うたものである  
庭に出で日向ぼっこをしました。太陽を浴びると「幸せホルモン」が出ると何か分かります。ほっこりしながら「私だけが乗ててゆくべきか、その人生における見通しの困難さを思い、またそれを選び取り、選び棄ててゆくことの、きびしき、しんどさを思はずにはおれません。

そこで何を選び取り何を選び棄てるべきか、明確な基準が必要となります。しかしながら、私たちの人生の日々はすべてがはじめてのおわりです。毎日が新しい経験の連続です。そこでは自分の人生の選びにおいて、たしかな基準はなかなかもちえず、出たとこ勝負といふほかありません。だがもし私たちが、すぐれた先人の生き方を学び、その足あとを尋ねてゆくなれば、そこにはきっと、自分の人生においてゆくならば、そこにはきっと、「全部賜うたものである」といふべきです。

細川 岩  
「私」たちは「知識がある」とか「知識がない」とか言います。この「知識」という言葉は仏教に由来する語で、本来「先生」を意味します。たとえば「私には多くの知識がある」といふ場合、それは困ったときに教導してくれる「先生」が多いという意味です。私たちは生まれてから種々のことを学び知識を得ますが、そこには必ず「先生」がいました。「自分には知識がある」という場合、それは自らが学び習得したものですが、それを伝えてくださった方々の「苦勞に感謝することが大切です。しかし多くの場合、感謝すらなく、傲慢にも「自分には知識がある」と威張つてしまふのです。

親鸞聖人が詠まれた「正像末和讃」の一つに「恩徳讃」があります。

如來大悲の恩徳は 身を粉にしても報すべし  
師主知識の恩徳も ほねを碎いても謝すべし  
「如來大悲」とは「南無阿弥陀仏」の親心のことであり、この煩惱具足の「私」のいのちを見放すことなく照らし続ける阿弥陀さまの智慧と慈悲です。「師主」とは、先生の中の先生でその「智慧と慈悲(南無阿弥陀仏の功德)」を私たちに説き示してくださったお釈迦さまのことです。

「知識」とは、その「南無阿弥陀仏」の親心を解きほぐして伝えてくださった方々、特に浄土教伝統における七人の先生(七高僧)と、その方々が残してくださった成果(書物)を意味します。親鸞聖人の「恩徳讃」は、それらのはたらきに対する、自らの「知徳報恩」の言葉なのです。私は今月の言葉を「知徳報恩」に通じる言葉と味わっています。

（大乗「より引用）



とすん

二月は、雪も降りましたが、まるで春を思わせるようなポカポカ良い天気の日がありました。朝、洗濯物を干したあと、暖かな陽気に誘われ庭に出で日向ぼっこをしました。太陽を浴びると「幸せホルモン」が出ると何か分かります。ほっこりしながら「私だけが乗ててゆくべきか、その人生における見通しの困難さを思い、またそれを選び取り、選び棄ててゆくことの、きびしき、しんどさを思はずにはおれません。